

校長室だより(No.24)

令和3年10月11日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

体験教育…自然学校

氷上回廊水分れフィールドミュージアム



円山川公苑



スノーケルセンター



春日地域の自然学校は、3日間が学校独自のプログラム、残り2日間が5校連合でのプログラムとなっています。この通信No.3でお伝えしましたように春日地域自然学校では、5つの体験ができるようにその内容(プログラム)を決めています。

1つ目は、「自然体験」です。黒井小学校では、氷上回廊水分れフィールドミュージアムで丹波市の地形や自然、草木や昆虫、魚類について学びました。ふだんからよく知っている丹波の自然ですが、魚の名前や色、形、生息場所となると大人でも不確かなものです。時間を使ってしっかりふれることができました。

2つ目は、「文化体験」です。地域の農場にお世話になってチーズ作りを体験します。チーズ作りは、日本では馴染みが薄いことですが、ここでしか学べない知恵や技術を学んでほしいと考えています。

3つ目は、自然学校そのものですが、集団でのルールを守ったり班や学校の仲間で協力して活動したりするいわゆる「社会体験」です。この集団生活での学びは大きいものと考えます。宿泊が無いために他の4校との交流はあまりできませんが、中学校に向けての仲間づくりも意識したいところです。

4つ目は、「身体を使った体験」です。怪我や感染症に気をつけて活動することや、カヌー・カヤック体験(円山川公苑)などがこれにあたります。自分の身体や艇を自分でコントロールする大切な体験です。成功体験を大切にしたいものです。

最後が「心の体験」です。自然学校を通して、がまんをしたり、失敗して困ったり、成功して喜んだり、感動したりすることです。何よりこれを友だちと共有することが大切だと思います。

体験活動の形態としては、よく「集中方式」と「継続方式」との二つがあると言われます。集中方式というのは、数日間、集中して体験活動を行うものです。集団宿泊活動である4泊5日の自然学校は、その代表例でした。それに対して、一定期間毎、継続しながら長期にわたって活動を積み重ねていくのが継続方式です。稲の栽培活動などの農業体験学習などは、その代表例です。3年生の環境体験学習これにあたります。

昨年、今年と集団での宿泊ができないために自然学校が継続方式となっている学校がほとんどだと思います。集中方式の場合、どれくらいの期間を集中して活動させたらよいか問題になってきますが、「社会体験」や「心の体験」を考えますと3日目くらいからが集団としてのまとまりができてきて、いろいろな想いを友だちと共有できると考えます。生活の仕方や施設のきまり、活動の内容、指導いただく人への礼儀やあいさつの仕方など、活動の基本を覚えこみ、身につける期間としてこれくらいの期間が必要です。ただ今年は、集中して活動できないために子どもたちの中でこのことが積みあがりにくいことになっています。

残すところ2日間の活動となりますが、この積み上げを意識して活動にあたらせたいと考えます。